# 奈文研ニュース

No.39 Dec.2010

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE

独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.go.jp/


## 平城京遷都1300年祭、大いに賑わい、成功裏に終了

11月７日をもって、平城宮跡会場における遷都1300年祭は無事終了しました。社団法人平城遷都1300年記念事業協会の発表では、期間中の来場者は、363万人におよび、当初計画を100万人以上も上回ったということです。連日の賑わいは、日頃の静かな宮跡を見慣れているものにとっては信じられないほどのことで、第一次大極殿を見学した人も、来訪者の半数近くを数えたということです。

今回の祭典は、かつて盛大に行われたという1200年祭や1250年祭と比べて大きな違いがあり、平城宮跡の保存史上重要な意味を持ちます。それは棚田嘉十郎や溝辺文四郎など地元の数人の有志から始まった平城宮跡の保存運動の大きな到達点を示すものです。

1200年祭の時も、1250年祭の時も、保存範囲は、宮跡中心部の一部にすぎず、まだ宮跡全体に及んでいませんでした。今日、平城宮跡は東院の張り出し部を含めて全域が特別史跡であり、「古都奈良の文化財」を構成する世界遺産です。そして、その特別史跡の大半は、国営公園にもなりました。また、この間、発掘調査の成果を受けて文化庁が策定した遺跡博物館構想にもとづく整備と復原も着々と進んでいます。とりわけ、４カ所の実物大復原のうち最後にあたる第一次大極殿が完成し、その完成式典の行われた４月23日から11月７日までの約200日間という長期にわたって平城宮跡会場での祭典が繰り広げられたのです。かつての祭典とはまったく異なる条件でおこなわれた1300年祭です。

幕末の研究から150年、明治の保存運動から100年、この間、民間の有志、地元住民、有識者、国、県、市など政官の関係者、そして発掘と調査研究に携わった諸先輩など、実に多くの人々の努力と思いが今日の平城宮跡を実現させました。平城宮跡には、遺跡自体の価値に加えて、これらの人々の思いや行動という価値も加わっているのです。1300年祭の成功は、こうした平城宮跡がもつ総合力が評価されたということではないでしょうか。

多数の来訪者ということだけではなく、今回の祭典でもう一つ強調しておきたいことは、市民によって支えられた祭典であったことです。平城宮跡に関していえば、解説ボランティアの活躍を特記しなければならないでしょう。すでに、平城宮跡では、奈良市や奈良文化財研究所がサポートする解説ボランティアが10年以上にわたって活動しているという実績がありました。この人たちを核にした数百人の解説ボランティアが連日来訪者に懇切丁寧な対応をし、平城宮跡の価値を発信し続けたのです。通算30万人、一日平均1500人の人に解説したそうです。こうした市民の活躍こそが、来訪者の数字以上の意味を持ちます。市民の皆さんが、平城宮跡やこの奈良の史跡をはじめとする文化財に誇りをもったことの証ではないでしょうか。このことが、何よりもこの祭典の意義ではないかと思います。

今、誰もが口にするのは、この祭典を一過性に終わらせてはいけない、ということです。事実その通りですが、その分、平城宮跡の保存活用に直接かかわる奈良文化財研究所の責任も重大ではないかとあらためて思います。　　（所長　田辺 征夫）

フィナーレを迎えた平城宮跡